

広島県緑化センター 5月の開花マップ



A ウツギ



B ウワミズザクラ



C エニシダ



D コバノガズミ



E カルミア



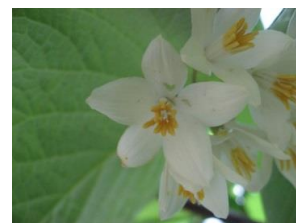
F カンボク



G コガクウツギ



H ツクバネ



I ハクウンボク



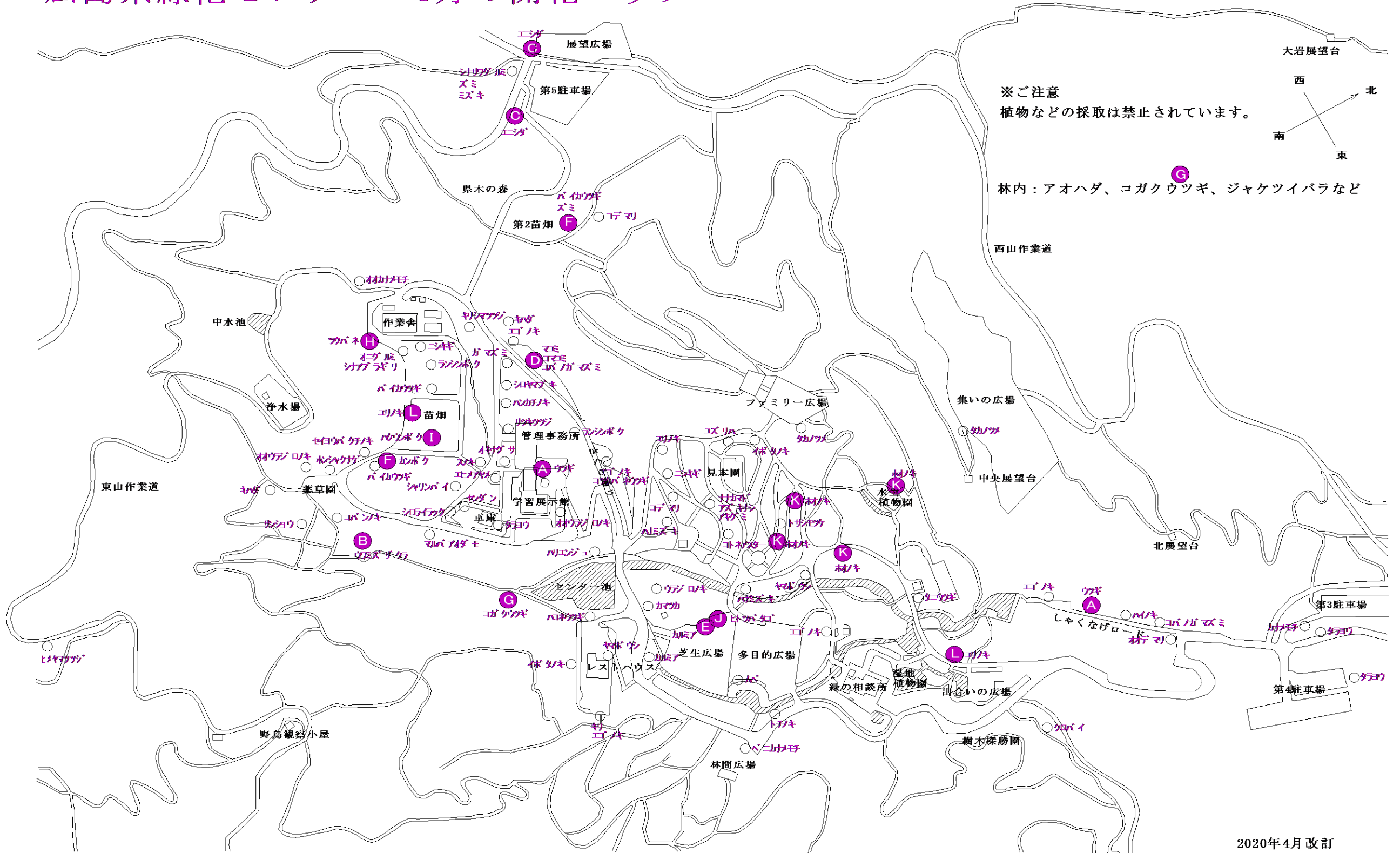
J ヒトツバタゴ
(ナンジャモンジャの木)



K ホオノキ



L ユリノキ



2020年4月改訂

ここに掲載のない植物写真や、植物の詳しい解説はホームページをご覧ください。

<https://ryokka-c.jp/guide/>



5月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
アオハダ	モチノキ	モチノキ		林内	5/17	山地の落葉樹林内に生育し、高さ12mになる。葉は互生し、短枝の先に集まってつく。花は雌雄別株で5～6月、短枝の先に緑白色の花を束生する。果実は直径7mmの球形で9～10月に赤色に熟す。	
アキグミ	グミ	グミ		見本園	4/22	河原、原野、川岸の礫地等日当たりのよいところに生え、高さ3～5mになる。花は4～6月に垂れ下がってつく。はじめ白色でしだいに黄色を帯びてくる。果実は、9～11月に赤く熟す。	
アズキナン	バラ	アズキナン	ハカリノメ	見本園	4/27	花は両性で白色。果実がナシの果実に似ていて小さいため名付けられた。黒紫色の小枝に明瞭な白の皮目を持つので、別名ハカリノメと呼ばれる。果実は10月ごろ赤く熟す。	
イボタノキ	モクセイ	イボタノキ		見本園	5/28	林縁に生育し、高さ2～4mになる。暖地では落葉しないこともある。花は5～6月に枝先に長さ2～4cmの総状花序をだし、白い小さな花をつける。果実は、直径5～6mmの楕円状球形で10～12月に紫黒色に熟す。	
ウツギ	アジサイ	ウツギ	ウノハナ	学習展示館前	5/19	日当たりのよい山野の林縁に生育し、高さ1～3mになる。花は5～7月に枝先に円錐花序を出し、白色の花を多数下向きにつける。果実は直径4～6mmで10～11月に熟す。	
ウラジロノキ	バラ	アズキナン		レストハウス下	5/8	海岸近くの山地から深山に生育。高さ10～15mになる。葉の裏面や葉柄には白い綿毛が密生する。花は5～6月に枝先や葉のわきから白い花を多数つける。果実は約1cmの楕円形が10～11月に赤く熟す。	
ウワミズザクラ	バラ	ウワミズザクラ	ハハカ	薬草園下川沿い	4/25	日当たりのよい谷間や沢の斜面に生育し、高さ15～20mになる。花は葉の展開後に開花する。新枝の先から伸びた長さ8～15cmの総状花序に白い花が多数密集してつく。果実は、8～9月に赤色から黒色に熟し、食べられる。	
エゴノキ	エゴノキ	エゴノキ	チシャノキ	さくら通り、見本園他	5/15	雑木林や山地の谷間に生育する。花は5～6月に新枝の先に白い花が1～6個垂れ下がってつく。果実は8～9月に熟して果皮が縦に割れ、褐色の種子が1個出てくる。	
エニシダ	マメ	エニシダ		第5駐車場周辺	5/13	ヨーロッパ原産で江戸時代に渡来した。法面緑化などに用いられ、高さ1～2mになる。葉は互生し、3出複葉、ときに1小葉に退化している。花は前年枝の葉腋に長さ約2cmの黄色の蝶形花が1個ずつつく。	
エヒメアヤメ	アヤメ	アヤメ	タレユエソウ	管理事務所前	4/12	草丈は4月から5月の開花期で10～15cmと小さいながら、直径4cm程の美しい青紫色の花を咲かせる。生育地が限られており、国指定の天然記念物に指定されていることが多い。移植は難しく栽培は困難とのこと。	
オオウラジロノキ	バラ	リンゴ	オオズミ	学習展示館前	4/27	山地の乾燥した尾根などに生育し、高さ10～15mになる。若葉や葉柄は綿毛が多い。花は両性で白色、花柱が5個つく。果実は9～10月に赤く熟す。	
オオカナメモチ	バラ	カナメモチ	テツリンジュ	作業舎上作業道	5/6	山地にまれに生育し、高さ10mになる。葉はカナメモチより大きく、新葉が展開したあと古い葉は紅葉して落ちる。花は5～6月枝先に集まってつく。生垣などに植えられているレッドロビン、カナメモチとオオカナメモチの雑種。	
オオデマリ	レンプクソウ	ガマズミ	テマリバナ	しゃくなげロード入口	4/28	日本では古くから栽培させている園芸種。枝の先端につけた花序はすべて白色の装飾花で、球状、花冠は5裂する。ヤブデマリよりも葉に丸みがあり、側脈は10～15対とヤブデマリの7～12対よりも多い。	
オキナグサ	キンポウゲ	オキナグサ		管理事務所前	3/27	山地の日当たりの良い所に生える多年草。全体に長い白毛が密生している。特に果実には長い白毛があり、オキナグサ(翁草)の名前はこのことにちなんでいる。花期は4～5月。県内ではあまり見かけなくなっている。	
オニグルミ	クルミ	クルミ		苗畑	5/3	川沿いや窪地など湿り気の多いところに生え、高さ7～10mになる。花は雌雄同株で5～6月に葉の展開と同時に開花する。果実は9～10月に長さ3～4cmの卵球形で堅果の外側を肥大して肉質になった花床が包む。	
カナメモチ	バラ	カナメモチ	アカメモチ	第3駐車場、園内	5/27	山地の斜面に多く、乾燥した尾根筋や沿海地にも生育し、高さ5～10mになる。花は5～6月、直径10cmほどの複散房花序に白い小さな花を多数つける。果実はほぼ球形のナシ状果で、10～11月に赤く熟す。	
ガマズミ	レンプクソウ	ガマズミ	アラゲガマズミ	管理事務所横三叉路、他園内	4/25	花は5～6月に枝先に直径6～10cmの散房花序をだし、白く小さな花を多数つける。果実は6～8mmの広卵形で9～11月に赤く熟す。コバノガマズミの仲間は葉柄が長さ6mm以下と短いのに対し、ガマズミの葉柄は1cm以上ある。	
カマツカ	バラ	カマツカ	ウシコロシ	レストハウス入口下	5/7	山地の日当たりのよい林縁などに生育し、高さ5～7mになる。花は4～6月、短枝の先の複散房花序に直径約1cmの白色の花を10～20個つける。果実は10～11月に赤く熟す。	
カルミア	ツツジ	カルミア	アメリカシャクナゲ	多目的広場芝生広場横	5/16	葉は互生で、枝の上部では輪生状につき、長楕円形で長さ7～10cm、革質で厚く、やや光沢がある。花は集散花序、淡紅色の花を数十個開く。花冠はお椀形の直径2cmで5裂し、内部の基部に紅色の斑点がある。	

5月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
カンボク	レンプクソウ	ガマズミ		苗畑	5/17	花は枝先に直径6～12cmの散房花序をだし、中心部に小さい両性花が多数つく。周囲に直径2～3cmの白い装飾花がつき、装飾花は5裂する。実はほぼ球形で、9～10月に赤く熟す。材は香気がある。	
キハダ	ミカン	キハダ	ヒロハノキハダ	薬草園横	5/21	枝先に円錐花序を出し、黄緑色の小さな花を多数つける。樹皮のコルク層を取り除いた内樹皮はベルベリンを含み苦味がある。これを黄檗といい薬用や染料に用いる。	
キリ	キリ	キリ		レストハウス裏	5/4	中国中部原産で高さ15mになる。花は5～6月に淡紫色の大きな花序をつけ、よく目立つ。花冠は5～6cmの筒状鐘形で上部は5裂する。果実は3～4cmの卵形で先端はとがる。材の重さは日本の樹種の中で最も軽い。	
キレンゲツツジ	ツツジ	ツツジ		第2駐車場法面	4/24	レンゲツツジの中で、花が黄色または橙黄色のものをキレンゲツツジと言う。花は葉の展開と同時に開花する。枝先に朱橙色の花が2～8個集まってつく。花冠は、直径5～8cmの漏斗形。果実は、10～11月に熟す。	
クロバイ	ハイノキ	ハイノキ	トチシバ・ソメシバ	樹木探勝園	5/8	照葉樹林内に生育し、高さ10mになる。花は4～5月に4～7cmの総状花序を出して、白色の花を多数つける。果実は11～1月にかけて紫黒色に熟す。木灰を媒染剤に用いた。	
コガクウツギ	アジサイ	アジサイ		園内	5/15	明るい丘陵や斜面などに生育し、高さ1.5mほどになる。葉は対生し、長さ3～5cm、大きな鋸歯がまばらにある。花は6～7月に咲き、白色～淡黄色を帯び、装飾花は直径1.5～2.5cmで1～3個と少ない。両性花だけの花序もある。	
コツクバネウツギ	スイカズラ	ツクバネウツギ		さくら通り	5/14	日当たりのよい雑木林に生育し、高さ2mほどになる。花は5～6月に新枝の先に黄白色の漏斗状の花がつく。果実は9～10月に熟す。ツクバネウツギより花が小さいことから名付けられた。	
コデマリ	バラ	シモツケ		見本園	4/28	中国中部原産で古い時代に渡来した。高さ1.5～2mになり、枝先は垂れ下がる。花は、4～5月に枝先に直径2.5～3cmの散房花序をだし、直径1cmほどの白花を多数つける。果実は6～8月に熟す。	
コトネアスター	バラ	シャリントウ	コトネアステル	見本園	5/20	1980年代に輸入された植物で常緑広葉低木のグラウンドカバー植物。秋の赤い実と緑の葉コントラストが美しい。	
コバノガマズミ	レンプクソウ	ガマズミ		さくら通り	4/20	丘陵～山地に生育し、高さ4mほどになる。花は4～5月に枝先に直径3～7cmの散房花序をだし、白い小さな花を多数つける。おしべは長くつきでて、めしべは短い。果実は、9～11月に赤く熟す。	
コバンノキ	ミカンソウ	コミカンソウ		薬草園下奥	4/26	川岸や崖地に生育し、高さ2～3mになる。葉は2列に互生し、両端とも丸く全縁で無毛、裏面は粉白色。花は4～5月に暗紫色の小さい花を付ける。果実は9～10月に径約6mmの球形で、黒く熟す。	
コマユミ	ニシキギ	ニシキギ		管理事務所横坂下	5/20	丘陵から山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育し、高さ1～3m。ニシキギのように枝に板状の翼はできない。花は本年枝の芽鱗痕のわきから集散花序を出し、淡緑色の小さな花を数個つける。果実は10～11月に熟す。	
サツキツツジ	ツツジ	ツツジ	サツキツツジ	園内	5/14	花は両性で、枝先に朱赤色の花を1～2個つける。花冠は漏斗状で5中裂し、上弁に濃い斑点がある。雄しべは5個。果実は長卵形のさく果で9～12月に熟す。	
サンショウ	ミカン	サンショウ	ハジカミ	薬草園横シダ園	5/7	花は単性で雌雄異株、枝先に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は球形で9～10月に赤褐色に熟す。種子は光沢のある黒色で辛い。芳香のある若葉や種子を香料として利用する。	
シナアブラギリ	トウダイグサ	アブラギリ	オオアブラギリ	苗畑	5/10	花は5月、枝先に円錐花序を出し白い花をつける。花弁は5～10枚、基部には褐紫色の筋がある。果実は直径3～4.5cmの球形で溝はなく、先端が急にとがる。葉の基部はハート形、葉身の基部表側に柄の無い腺が2個ある。	
シナサワグルミ	クルミ	サワグルミ	カンポウフウ	西ゲート下	5/26	中国原産で明治時代初期に渡来し、高さ25～30mになる。花は雌雄同株で5月に雄花序も雌花序も垂れ下がる。果実は7～8月に熟す。サワグルミには葉軸に翼はないが、シナサワグルミの葉軸には翼がある。	
ジャケツイバラ	マメ	ジャケツイバラ	カワラフジ	西山作業道	5/8	林縁や川岸、原野に生育し、つる状にのび、鋭い刺がある。花は長さ20～30cmの総状花序に黄色の花をつける。果実は豆果で長さ7～10cm、幅3cmほどあり、10～11月に褐色に熟すと、2つに裂開し、数個の種子をだす。	
シャリンバイ	バラ	シャリンバイ	タチシャリンバイ	管理事務所前法面	5/23	海岸や海岸に近い山地に生育し、高さ1～4mになる。花は5月頃に枝先に円錐花序を出し、直径1～1.5cmの白色の花を多数つける。果実は、10～11月に黒紫色に熟す。移植はやや困難。	
シロヤマブキ	バラ	シロヤマブキ		管理事務所横	4/26	自生地は限られて広島県のレッドデータブック(絶滅危惧種)に指定されている。花は4～5月に新しくでた側枝の先に直径3～4cmの白色の花が1個つく。果実は、長さ約7mmの楕円形で4個集まってつき9～10月に熟す。	

5月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
シロライラック	モクセイ	ハシドイ	ムラサキハシドイ・リラ	車庫前	4/11	明治時代にヨーロッパより渡来。花は枝の先端に円錐花序を出し、多数の花をつける。強い芳香があるので香水の材料にされる。果実は鋭頭で長楕円形のさく果。花の色が白のものをシロライラックと呼ぶ。	
スノキ	ツツジ	スノキ	コウメ	事務所前法面	5/6	花は6～7月、緑白色～紅色の花を1～4個下向きにつける。果実は7～8月に紫黒色に熟す。和名は葉をかむと酸っぱいことから名付けられた。	
ズミ	バラ	リンゴ	コリンゴ	西ゲート外	4/17	日当たりのよい山地の林縁や湿原などに生育し、高さ6～10mになる。花は5～6月で短枝の先に散形花序をだし、直径2～4cmの白色の花をつける。果実は直径6～10mmの球形で、9～10月に赤色に熟す。	
セイヨウバクチノキ	バラ	バクチノキ		薬草園上の園路 沿い	4/20	ヨーロッパ原産の常緑小高木。花は4月に葉腋から穂状の総状花序を出し、白い花を多数付ける。果実は核果で6月に紫黒色に熟す。名称は、樹皮がはげ落ちるのをバクチに負けて裸にされたものに例えたもの。	
センダン	センダン	センダン	オウチ	車庫前	5/23	花は本年枝の基部の葉腋から10～15cmの集散花序だして、淡紫色の花を多数つける。果実は10～12月に黄褐色に熟す。果実は葉が落ちたあとも長く枝先に残っていることが多い。	
タカノツメ	ウコギ	タカノツメ	イモノキ	ファミリー広場	5/13	葉は3出複葉だが時に単葉、2小葉が混じる。花は黄緑色の小さな花が多数集まった散形花序を総状につける。果実は小型の球形で黒く熟す。	
タニウツギ	スイカズラ	タニウツギ		ツバキ園トイレ前	5/7	花は桃紅色～紅色の漏斗型の花を2～3個ずつつける。果実は10月ごろ熟し、上部が2裂して種子を多数出す。和名は谷に生えるウツギからつけられた。古くからこの花の開花を農作業等の指標にしたという。	
タラヨウ	モチノキ	モチノキ	モンツキシバ	車庫裏、 第3駐車場下通路	5/6	花は雌雄別株で5～6月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は、11月に径1cmで赤色に熟す。葉裏を細い棒でひっかくと黒く変色して浮き上がり、文字を書くことができることからはがきの木とも言われる。	
ツクバネ	ビャクダン	ツクバネ	ハゴノキ、コギノコ	作業舎裏	5/6	ヒノキ等他の植物の根に半寄生して生育する。花は雌雄異株で5～6月に枝先に淡緑色の小さな花を咲かせる。果実が羽根つきの羽根にそっくりなので、ツクバネの名がついた。	
トサンモツケ	バラ	シモツケ		見本園	5/7	イワシモツケの変種で、高知や徳島の暖温帯の川岸に生育する。花は両性、白色、散房花序は当年枝に頂生する。	
トチノキ	ムクロジ	トチノキ		多目的広場外園路 沿い、他園内	5/6	花は雌雄同株、枝先に円錐花序を直立し、多数つける。果実は、直径3～5cmの倒卵状球形で表面にはいぼ状の突起が多く、9月に熟す。種子のあくを抜いて、トチ餅がつくれ、花はミツバチの蜜源として重要とされる。	
ナナカマド	バラ	ナナカマド		見本園	4/25	花は、5～7月に枝先に複散房花序をだし、直径6～10mmの白い花を多数つける。果実は、直径5～6mmの球形で、9～10月に赤く熟す。材が燃えにくく、7度かまどに入れても燃え残ることから名付けられたという説がある。	
ニシキギ	ニシキギ	ニシキギ		見本園、作業舎裏	4/29	若い枝は緑色で4稜があり、稜上に褐色の薄い板状の翼がある。花は5～6月に本年枝の芽鱗痕のわきから集散花序を出し、淡緑色の小さな花を数個つける。果実は10～11月に熟す。	
バイウカウツギ	アジサイ	バイカウツギ	サツマウツギ	苗畑	5/16	白い花の様子が梅の花を思わせることから名づけられた。花は6～7月、枝先に集散花序をだし、白い花を5～9個つける。花弁は4個。樹皮は縦に裂けて薄く剥がれ落ちる。	
ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	イノコシバ	しゃくなげロード、 他林内	4/23	林内に生育し、高さ5～10mになる。葉は互生し、長さ3～8cm、幅1～2.5cmでふちには浅い鋸歯がある。花は4～5月に白色の花をつける。果実は、8～10月に紫黒色に熟す。	
ハクウンボク	エゴノキ	エゴノキ	オオバヂシャ	苗畑	5/9	樹皮は暗灰色で、枝は紫褐色。葉はほぼ円形で、直径15cm前後と大きいので、よく目立って見分けやすい。花穂は10～20cmと長く、白花を15～20個つける。	
ハナミズキ	ミズキ	ミズキ	アメリカヤマボウシ	ツバキ園	4/20	原産は米国、明治中期に渡来した。花は4～5月に葉が展開する時期とほぼ同時に開花する。花弁のように見えるのは総苞片で、白色や紅色がある。中心に黄緑色の15～20個の花をつける。果実は楕円形、9～11月に赤く熟す。	
ハリエンジュ	マメ	ハリエンジュ	ニセアカシア	センター池	5/12	北アメリカ原産で樹高は15m。しばしば托葉が変化した刺がある。花は5～6月に葉腋から長さ10～15cmの総状花序を垂らし、香りの良い白色の蝶形花を多数つける。果実は、豆果で10月頃に熟し、裂開して種子をだす。	
ハンカチノキ	ミズキ	ハンカチノキ	ハトノキ	管理事務所横	4/22	中国西南部に分布する一属一種の珍しい樹木。5月上旬頃に、枝から葉とともに花芽が見られ、花を包む白い2枚の苞(ホウ:約10～20cm)が満開時には、たくさんのハンカチが垂れ下がるように見える。	

5月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
ヒトツバタゴ	モクセイ	ヒトツバタゴ	ナンジャモンジャ	芝生広場	5/4	岐阜県の瑞浪市や長崎県上対馬町などの自生地は国の天然記念物に指定されている。雌雄別株、5月に新枝の先に円錐花序をだし、白い花を多数つける。タゴはトネリコのこと、葉が単葉なので一つ葉の名がつけられた。	
ヒメヤマツツジ	ツツジ	ツツジ		東山作業路	4/30	広島県や山口県に分布し、ヤマツツジと比較すると葉や花が小形で、花筒が長い。花は4～6月に枝先に紅紫色の花を2～3個つける。果実は8～10月に熟し、裂開する。	
ベニカナメモチ	バラ	カナメモチ		林間広場	5/27	山地の斜面に多く、乾燥した尾根筋や沿海地にも生育し、高さ5～10mになる。花は5～6月、直径10cmほどの複散房花序に白い小さな花を多数つける。若葉が特に赤い本種を”ベニカナメモチ”と呼ぶ。	
ホオノキ	モクレン	モクレン	ホオガシワ	見本園	5/2	丘陵や山地に生育し、高さ30mになる。花は、5～6月に枝先に直径約15cmの大きな花を開く。花は黄白色で芳香がある。果実は集合果で長さ10～15cm、9～11月に熟す。花と葉の大きさは、日本の樹木の中で最も大きい。	
ホンシャクナゲ	ツツジ	ツツジ	シャクナゲ	薬草園	5/8	日本のツツジ属の中では最も豪華な花をつける。花は両性、枝先に紅紫色～白色の花が多数横向きに咲く。花冠は漏斗状、縁は7～8裂し、上側の裂片に斑点がある。果実は円筒状のさく果で、9～10月に熟す。	
マユミ	ニシキギ	ニシキギ		管理事務所横坂下	5/20	林縁に生育し、高さ3～5mになり、大きいもので10mになる。花は5～6月に集散花序を出し、緑白色の小さな花を1～7個つける。果実は、10～11月に淡紅色に熟し、熟すと4裂し、橙赤色の種子がでてくる。	
マルバアオダモ	モクセイ	トネリコ	ホソバアオダモ	車庫近く	4/22	平地から山地まで、日当たりのよいところに見られ、高さ5～15mになる。花は雌雄別株、4～5月に新枝の先に円錐花序を出し、白い花を多数つける。果実は長さ2～2.7cm、幅4～5mmの倒披針形。	
ミズキ	ミズキ	ミズキ	クルマミズキ	西ゲート外	5/4	花は両性、枝の先端の散房花序に小さな白い花を密につける。果実は核果で、10～11月に黒く熟す。和名は樹液が多く、春に枝を折ると水のように滴り落ちることによる。	
ミヤマガマズミ	レンプクソウ	ガマズミ		薬草園横法面	4/28	花は5～6月に直径6～10cmの散房花序をだし、白い小さな花をつける。ガマズミは葉先のとがりが鈍く、葉柄に短毛や星状毛が密生しているのに対し、本種は葉先が鋭くとがり、葉柄には長い絹毛がまばらに生えている。	
ムベ	アケビ	ムベ	トキワアケビ	多目的広場	4/20	常緑樹林内や林縁に生育する。花は雌雄同株で4～5月に葉腋から短い総状花序をだし、淡黄白色の花を3～7個つける。雌しべは3個。果実は、10～11月に紫色に熟す。アケビと違って裂開しない。	
ヤマイバラ	バラ	バラ		西山作業路	5/28	花は直径4～5cmと大きく、枝先に白い花が10～20個集まって咲く。葉は互生、長さ11～15cmの奇数羽状複葉。ノイバラの仲間では最も大きい。托葉は幅が狭くほぼ全面面が葉柄に合着する。	
ヤマボウシ	ミズキ	ミズキ	ヤマグワ	レストハウス、見本園	5/13	山地の林内や草原に生育し、高さ5～15mになる。花は5～7月に開花する。花びらのように見えるのは総苞片で、総苞片の中心に淡黄緑色の小さな花が20～30個密集してつく。果実は、9～10月に赤く熟す。	
ユズリハ	ユズリハ	ユズリハ		見本園	4/26	5～6月、前年枝の葉腋から長さ4～12cmの総状花序を出す。雄花は花弁も萼片もなく、雄しべが6～12個ある。雌雄別株。果実は長さ8～9mmの卵形楕円形で、11～12月に藍黒色に熟す。	
ユリノキ	モクレン	ユリノキ	ハンテンボク・ チューリップツリー	出合い広場、見本園	5/16	北アメリカ原産。明治初期に渡来し各地に植えられた。高さ20m以上になる。花は5～6月、枝先に直径5～6cmのチューリップのような花をつける。果実は10月頃熟す。外側の翼果がコップ状に残ることが多い。	
ランシンボク	ウルシ	ランシンボク	カイノキ	さくら通り法面	4/20	中国・台湾・フィリピン原産で、高さ15～25mになる。花は、雌雄別株で4月頃葉の展開と同時に小さな花を円錐状につける。中国の孔子廟に植えられ、『学問の聖木』とされ、岡山県の関谷学校などに植えられている。	